

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900184
法人名	有限会社 めぐみ福祉会
事業所名	大口めぐみの里
所在地	鹿児島県伊佐市大口曾木480番地 (電話) 0995-25-2323
自己評価作成日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な環境と地域との交流を大切にしながら、安らぎと憩いの場を提供します。
2. 個人の尊厳を失うことなく自立を手助けします。
3. 満足と生きがいを持って頂けるよう努めます。
4. 職員一人一人が認知症ケアについて日々学びの姿勢を忘れず、研修にも積極的に参加し、ケアに活かしています。
5. 毎朝朝礼で介護理念を唱和し、理念に基づいた介護に取り組んでいます。
6. 利用者様の居室、共有の場所、園内全ての空間の清掃、環境整備に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、近くに同一法人の有料老人ホームとデイサービスがあり、有料老人ホームとは食事の配膳や看護師との連携等、協力体制が築かれている。
- ・地域行事への参加を見合わせる等、地域との交流はコロナ禍のため自粛しているが、住民からの野菜の差し入れや小学生からの手紙は継続しており、地域の清掃活動には事業所の職員が毎回参加協力している。
- ・コロナ禍のため家族との交流は困難な状況であるが、窓越し面会や事業所からの状況報告・写真の送付で家族との繋がりが途切れないよう支援している。
- ・管理者は、職員が前向きに業務に取り組めるよう就業環境の改善を図ったり、職員がお互いにカバーし合って利用者へのケアにあたるよう、職員の事情や健康管理へも目配りを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホールや玄関などのいつでも確認できるところへ施設独自の介護理念を張り出してあり、毎朝の朝礼時に必ず唱和、共有している。	理念を重要事項説明書・パンフレットに記載し、ホール・廊下に掲示している。朝礼で唱和して理念を確認するとともに、週ごとの目標を立ててケアを振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段であれば敬老会などの施設内での催し物へ地域の方々を招待しているが、今年度は感染症対策の観点から実施することが出来なかった。	自治会に加入しており、回覧板で地域行事は把握しているが、コロナの感染予防のため参加は自粛している。近隣からの野菜の差し入れや敬老の日の小学生からの手紙は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	質問へ応じられるように通常であれば事務所を開かれた状態にしているが、感染症対策により外部からの訪問を制限しているため来訪者はほぼいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員や自治会会員など招待し2か月に一度のペースで実施していたが、当施設の職員で話し合った議事録を送付し今年度は運営推進会議として報告している。	コロナ禍のため、2ヶ月に1回の運営推進会議は社内職員のみで実施し、議事録を外部委員に送付している。委員からの意見は把握できるようにしている。事業所の状況等は理解してもらえよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録を送って現状を報告したり、普段から不明点を電話やファックスなどで尋ねたりと日頃から連絡を取り合っている。	市の担当者とは普段から電話や出向いて相談するなど連携を図っているが、今年度は特に、コロナ感染症発生時に連絡を密に取り合っただけ対応した。市主催の研修会には参加し、情報収集にも務めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修の中で身体拘束について取り上げ、事例など参照しながら行わないためにどのように業務に携わなければならないか話し合う機会を作り、実践に繋げている。	指針を作成し、委員会及び研修会を年4回実施している。不適切な言葉かけ等に気付いたら管理者が注意しており、ヒヤリハット報告が月に1~2件と少ないため、管理者が気づいた時に報告を促している。玄関の施錠はせず、外出希望の利用者には職員が声掛けや散歩・ドライブで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に当たる行為について内部研修の中で学ぶ時間を設け、自分たちの関わり方を振り返りながら適切なケアを目指している。適切な対応か疑問を感じたらその都度職員や管理者と意見を出し合い、業務へ活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人がついている入居者様も実際にいらっしゃるため、文書や電話による報告や面会時に日頃の様子をお伝えしている。内部研修の中で取り上げ、どういった制度なのか学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設に関して気になったことへ答えながら、了承が得られたら契約するようにしている。事前に見学も希望があれば対応し、不安をなるべく減らせるように進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気になったことや希望など意見を出して頂きやすいように、面会時などの場面で入居者様の普段の様子をお伝えしながら関係づくり心がけている。出してもらった意見は、職員全員に共有されるようにしており朝礼やミーティングなどの場で検討するようにしている。	利用者には日常会話で要望等を聞いており、家族には、面会時や電話で状況を報告した際に要望等を聞いている。要望については検討した結果を家族に伝えて理解を得るとともに、職員にも伝えて全体で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどの話し合いの場に施設長や管理者、事務長が参加して直接意見を言える機会を作っている。業務中に感じたことを普段からこまめに相談しており、反映されている。	施設長等は毎月ミーティング時に職員からの意見を聞いている。職員からの提案が、職員の負担軽減と円滑な業務のため、勤務時間見直しに反映した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務表作成の前に希望休という形で要望を提出し、それを基に組んでいる。勤務時間の変更の際は職員と話し合い、意見を反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修として計画をあらかじめ立ててあるが、職員から学びたい分野について意見を貰い実際にテーマを決定させることもある。現在管理者が外部への研修に参加しており、そこで学んだ内容をミーティングなどの機会に共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修には限られた職員が参加し、持ち帰った知識を他の職員にも伝えることでサービスをより良くするための取り組みとしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りの第一歩として本人様へまず話しかけ、反応を見ながら話題を振りコミュニケーションに努めることで、発言しやすい空間になるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や見学に来られた際に会話を心掛けるようにして、小さな質問も話しやすい雰囲気になるよう働きかけている。教えて頂いた内容を実際に業務の中で活かすために共有し、不安を払拭出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族などから病歴や生活歴などの本人様の情報を聞き取り、注意すべき点・必要なケアについて職員間で話し合いサービスへ活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれの日々の生活の流れを汲み、適切な介助方法を選び働きかけに繋げている。普段からその方の経験談などコミュニケーションの中で聞き取って関係作りの一助としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>感染症対策により直接の面会が難しい状態が継続しているが、電話や季節のお便りへのお手伝いをしたりご家族からの連絡を受け入れるなど、本人様の現状をお伝え出来るようとりくんでいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人様の馴染みの場所をめぐるドライブを実施したり、入所以前から見て頂いているかかりつけ医を安心して継続していけるようやり取りや送迎など手助けしている。</p>	<p>事業所から毎月、お便りや写真を同封したり、ガラス越し面会や電話・手紙での家族との交流を支援している。個別の自宅訪問や墓へのドライブ・かかりつけ医への受診など、これまでの関係が途切れないようにしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>体操やレクリエーションなどホールでの活動へお誘いし、利用者同士の交流が増えるように話題を振り働きかけている。ホールでの会話の流れを見ながら、相性がよさそうな方と同じテーブルに座席の位置を変えるなどより関わりが増やすために支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後もご家族からお野菜などの差し入れを頂いている。本人様自身は体調悪化で入院したり、他の事業所に移った場合でも様子を尋ねたり、ご家族より連絡があったりと繋がりは残っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の中で会話や動作など本人様の気持ちが分かるものを記録へ残し、その意向を実現するために職員間で共有して働きかけに活かしている。	日常会話の中で本人の意向を把握できるように努めており、思いを伝えることが困難な場合は、家族等の情報から本人の思いを推測して支援している。得た情報は記録し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様からだけでなくご家族や主治医からも過去の話聞かせて頂いたり、話題に上がった内容を記録にも残してどういったものが好みか職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話しながら行動を見守り、本人様がどこまで出来るか見定めてから必要な声かけなどの介助を行うように意識している。日々の体調についても毎朝確認してからホールへ誘導したり、居室でゆっくりして貰ったりとその日に寄って過ごし方を変えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の言葉や動作などから必要なケアについて日常的に職員同士で検討したり、主治医やご家族と話し合うなど最適な方法を模索し、記録に残したものを生かして介護計画を作成している。	家族の意向を聞き、医師の意見や利用者との会話や記録から把握した職員の意見を話し合い、介護計画を作成している。毎月ケアを振り返り、2～3月毎にモニタリングを実施している。2ヶ月～1年の間で見直し、現状に即した計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録とは別に既往歴や服薬内容など基本的な情報と、毎日のバイタル値や食事の摂取量を一枚の個人記録にまとめ、見返し共有できるようにしている。その記録を介護計画の評価に活かせるように日々取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や本人様の訴えに応じて病院受診や外出など職員が付き添い、対応できるようにしている。予定としてなくても、希望があれば支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元である伊佐市内の公園や神社など訪れたことがあるであろう場所をドライブとして巡るなど楽しみが増えるように取り組んでいる。ボランティアによる慰問は感染症対策の観点から今は受けていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人様やそのご家族に選んで頂き、適切に診て頂けるように付き添いや車での送迎、本人様の普段の様子を通院時にお伝えするなど取り組んでいる。	入居時に希望するかかりつけ医を確認しており、それぞれ月1回の往診を受けている。専門医への受診は職員が支援し、緊急時は管理者からかかりつけ医へ電話して、指示を受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日午前と午後にバイタル測定を実施し、数値や動作、発言、顔色などいつもとの違いを感じたら看護師へ相談し指示を仰いでいる。また、必要であれば主治医にも相談や往診の依頼したり、受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際は、本人様にいつも接している職員が服薬内容や既往歴、身体機能、緊急連絡先などまとめて、入院先の担当看護師へお届けして、治療がスムーズとなるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応に関して、入所時にご家族・本人様の希望を尋ね、それを文書に残している。職員間でその意向を周知し、普段から主治医とも相談しながらその実現に向けての取り組みとされている。	契約時に重度化の場合の事業所対応について説明し、緊急時の対応書に家族の希望を記入してもらっている。家族の希望を受けて段階的に家族・主治医と話し合いをしており、重度化の場合に主治医から家族に病状説明をする際は管理者が同席し、事業所でできる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、夜勤・日勤どちらの場合でも対応できるように普段から訓練も実施している。そのマニュアルは電話の近くに掲示し、見ながら関係者へ連絡が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急時にすぐ連絡が出来るように職員の連絡先をリスト化して態勢を整えている。災害が発生したことを想定した訓練を年2回実施し、その際危険な場面はなかったか、不備はなかったか見直す機会としている。</p>	<p>避難訓練を消防署立ち合いで1回、自主訓練を1回実施している。水害対策の避難訓練では実際に避難所の公民館へ車で移動し、課題の検討をしている。コロナ禍のため、訓練に地域の参加はないが、職員が地域の清掃活動に毎回参加協力するなど、自治会との協力体制が築かれている。非常用の備蓄は、水やレトルト食品・ゼリー食などの食料、カセットコンロがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>お手伝いする前に「今から何の時間か」「何をするのか」を説明し、了承が得られたら実施するようにしている。本人様になるべく近づいて声をかけ、周りの方に何をするかが伝わりにくように配慮して介助に当たっている。</p>	<p>接遇研修を入職時に実施している。事前に声掛けして本人の了解を得てから介助を行なう、排泄等の職員間の情報交換は他者にわからないようにする等、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。申し送りも利用者に内容がわからないよう配慮して行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>必要であれば身振りや筆談も使い、相手に合わせた声のトーンで言葉をかけ、本人様の気持ちをくみ取れるように普段から心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>病院の受診や行事など大まかにスケジュールは決めているが、本人様の状態に合わせて日を改めたり、参加するかを直接本人様に尋ねてから当日に決めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>その方の使い慣れたメーカーの整髪剤や保湿クリームなど自室の洗面台やタンスなどに用意されており、使えるように支援している。足りなくなった場合は職員が指定された品物を代わりに購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合わせて食事の形態を職員が盛り付けの際に調整して提供している。献立によって食べられないものが出る場合は、代替食も用意している。残した献立については本人様に理由を尋ねたり、職員も味見して厨房に相談するなど次回からの食事に活かしている。	法人内厨房からの配膳を受け、刻みやミキサー食の個々に応じた食事形態で提供している。嗜好調査を実施し、代替食も用意している。法人の菜園の野菜や住民からの差し入れの野菜で旬のものを調理している。事業所ではおやつを作っており季節感を出せるよう工夫し、利用者も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギーや服薬内容など踏まえて厨房担当が調理している。出来る限り苦手な食材・献立についても代替品を用意して対応し、食べる量や水分摂取量が個人により差があるため、その方専用で飲み物を用意して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへ食事の後は声かけ・誘導を行っている。自身では難しい方は職員が義歯を磨いたり、うがいを手伝う、使う用具を手元にそろえるなどその方に合わせた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を促すようにしており、使用するタイミングや排泄量など記録に残し、時間を見ながら声かけや誘導を行っている。オムツの使用は本人様や職員で充分検討し、適切だと判断したら使うようにしている。	個々の排泄パターンを把握して、タイミングや利用者の様子を見ながら声掛け・誘導してトイレでの排泄支援に努めている。パット等の排泄用品は個々に適切な物を検討して使用し、夜間は状況に応じてポータブルトイレを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通のタイミングや頻度を記録し処方があれば下剤を指示された量を使用して貰ったり、食後に必ずトイレ利用をお手伝いしている。歩行運動やこまめな水分摂取、腹部マッサージ、好んで牛乳やヤクルトを飲んで貰い便秘状態が続かないように働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	前もって入浴予定日を決めているが、着替えの用意を行う際に入浴のタイミングをもう一度伝えたり、どの服を着たいか尋ねている。また、当日の体調などをみてから、入浴か清拭に切り替えたり、延期・中止をを検討して実施している。	週2回午前中に入浴を実施している。体調により清拭を実施しており、浴槽での入浴は本人の希望や体調を考慮し支援している。入浴剤やゆず湯で楽しんでもらえるよう工夫している。拒否の場合は、日を変えたり声掛けを変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を季節に合わせて整え、一日のうちいつでも休めるように用意している。部屋の暗さや温度などその方に合わせて調整し、心地よく眠ることが出来るようにお手伝いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や診察時の様子など記録したものをファイルにまとめ、いつでも見返せるようにしている。一包化された薬に氏名・服用タイミング・日付を印字して与薬箱に確認しながら入れている。必ず別の職員が確認も行い、間違いが怒らないように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方、塗り絵などが好きな方、お出かけが好きな方と、一人ずつ好みが違うためその日によってレクリエーションの内容を変えて、楽しんで頂いている。職員からその方がどこまで出来るか判断しながら掲示物作成にお誘いして働きかけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	人が混むようなところへは現在感染症対策として行けてはいないが、季節によってお花見や紅葉狩りなど車での外出をお手伝いしている。気分転換を兼ねて緑のある土地を巡ったり、普段からドライブへ出かけている。	散歩は敷地内が主で、車いすの利用者も希望があれば出かけている。先日は県下一周マラソンの応援に国道まで出かけた。季節ごとに曾木の滝へドライブしたり、受診時や希望により月2～3回は数人のドライブで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金という形で事務所で管理しており、入居者様自身の希望、ご家族からの依頼で職員が頼まれた品物を代わりに購入し、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	季節の贈り物が届いたら、必ずお礼の電話をかけるようにしてご家族と本人様が直接お話しできるように働きかけている。年賀状や暑中見舞い等のお便りも一言でも気持ちを書き込んで貰ってから送るなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に飾る掲示物を季節によって変えて目でも楽しめるように工夫している。共用の空間であるホールには二つのテーブルを配置し楽しく会話できる方と席を近づけたり、座りやすい席か様子をしながら席替えを行うこともある。	ホールは空気清浄機や加湿器で適度な室内環境に調整し、換気も十分行っている。季節ごとに掲示物を工夫し室内でも季節を感じられるようにしており、窓からは外の景色も見える。ホールに椅子やソファを配置し、廊下や玄関にもソファを置き、利用者は好みの場所でくつろぐことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内や廊下、玄関など椅子やソファを配置しており、会話が弾む相手と座れる空間を設けている。外の景色を見ながら、ゆったりと時間を過ごせるように言葉をかけるタイミングも考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	送られてきたお便りや写真を壁に貼ったり、使い慣れている寝具や衣類を居室に配置し実際に使って貰えるように働きかけている。今着用できないものであっても思い出の衣装を手元に置いている方もいる。	居室には、ベッドやエアコンが備えてあり、寝具は持ち込みのほかリースの利用もできる。利用者は、必要に応じてタンスやテレビ・テーブル等の家具や衣類を持ち込み、壁には家族の写真や手紙を飾るなど、本人が安心して過ごせるように部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内に段差は大きいものはなく廊下には手すり、トイレには可動式の手すりを備え付けてある。大きくトイレと書いた紙をトイレの扉の前に張り出しておいたり、廊下にも位置を伝える張り紙を掲示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない